



令和3年度 第34回 日本最優秀鳩舎賞

河原雅基鳩舎(東京東連盟・ベイ東京連合会)



「ゼロ年代の絶対王者」

15年ぶりの日本一

88年に設立された日本鳩レース協会の最高賞「日本優秀鳩舎賞」。「令和」という新時代を迎えた19年より、春の4レースのみが対象となった上、Rgと地区Nが5%内に各3羽、GPと桜花賞あるいはGNは連盟序列10%内に各2羽に変更となった。これまでの全レース5%内、秋Rgもあつた時と比べて、規程のクリア条件は緩和されており、第1回目の19年は26鳩舎、実質2回目となる21年は、歴代最多であろう31鳩舎が受賞資格を手に入れた。そして注目目の全国1位——「日本最優秀鳩舎賞」に選ばれたのは、河原雅基鳩舎(ベイ東京)。「日本優秀鳩舎賞」、「日本最優秀鳩舎賞」のいずれでも最多受賞数を誇る同鳩舎の日本一は15年ぶりである。かつての「絶対王者」、ここに帰還す!

歴代最多

11回目

長年のパートナーである強制用の旗を手に、
といっても先端につけるのは風とのかどだ。

入賞率合計: 0.03574

レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	20MA01946	B	♂	1,804羽	4位	0.00222
	19MA05206	B	♀	1,804羽	7位	0.00388
	19MA05307	B	♂	1,804羽	9位	0.00499
地区N	20MA01918	BC	♂	1,353羽	2位	0.00148
	20MA01960	B	♀	1,353羽	3位	0.00222
	20MA01856	B	♂	1,353羽	4位	0.00296
桜花賞	20MA01811	B	♀	376羽	1位	0.00266
	19MA05291	B	♂	376羽	3位	0.00798
GP	19MA05300	B	♀	953羽	2位	0.00210
	20MA01989	B	♂	953羽	5位	0.00525

河原雅基鳩舎のプロフィール

- 鳩歴: 36年
- レース歴: 36年
- 鳩舎規模: 種鳩16坪100羽 選手鳩4坪100羽
- 主力系統: パーラー系、ヨーロッパ輸入系
- 代表翔歴: 日本最優秀鳩舎賞6回
21年KBDB会長賞全国優勝
04年東日本CH総合優勝
東京ブロック連盟GP総合優勝6回
21年春のスタート羽数: 100羽 (うち成鳩25羽)

絶対王者、バードに帰還!

純粋に競翔家としての強さを比べる。無差別級タイトル「日本優秀鳩舎賞」。全国1位にあたる「日本最優秀鳩舎賞」は、いわずもがな「日本」を意味する。令和3年度に日本鳩レース界の頂点への挑戦資格を手にしたのは、なんと31鳩舎に及んだ。例年20鳩舎にも満たない厳しいものだが、この数値は歴代でもトップクラスである。19年度から春レースのみ、かつGPと桜花賞（*あるいはGN）が10%以内に変更されたからなのか、それともレースシステムを「日本優秀鳩舎賞」仕様に変更する団体が増えているからなのか、ともあれ最高賞としての評価と注目度が高まっていることは間違いない。

令和3年度の「日本優秀鳩舎賞」は東西から誕生し、うち半数が歴代の「日本一鳩舎」。豪華メンバーで彩られる中、「日本最優秀鳩舎賞」——全国1位には、実に15年ぶりに河原雅基鳩舎（ベイ東京）が選出された。「日本優秀鳩舎賞」最多受賞更新となる「11回」目、かつ「日本最優秀鳩舎賞」では前人未踏の「6回目」という歴史的な記録を樹立

した上での「振り返り」である。

しかし河原鳩舎自身は、今回の成果が「復活劇」と扱われるとしたら、それは疑問だという。自身のスタイルは06年度時に果たした「6年連続受賞（*01年〜06年）」、つまり「絶対王者」として君臨した時代とも変わらぬのだから——。

ライバルの台頭で燃えた!

種鳩、選手鳩、いずれも健康を保ち、規則正しく管理をする。前者の健康面は、予防として投薬を定期的に行い、とりわけ内在菌である「トリコモナス」には注視。その頻度はシーズンオフだと1か月に1回、シーズン中はレースごとに、とのことだ。後者の規則正しい管理は、1日2回の全外である。大雨あるいは強風時以外は、毎日各1時間。シーズン中も同じだが、勝負を仕掛ける地区Nからは分離にして、強制に切り替えて飛ばし込むとのことだ。個人の訓練はあくまでシーズン中のみ。しかもRGに入ってからとのことだ。GPまでは1回、桜花賞とGNまでは2回あるいは3回、「石岡（70K）」から行うようだ。この場所を選ぶ理由としては、猛禽類に襲われるケースが少ないから。ちなみに

全日本ゼネラルCH賞の最多受賞の及川 茂鳩舎も近傍から飛ばしており、河原鳩舎曰く、道中のサーピスエリアでよく同鳩舎を見かけるようだ。給餌面はシーズンオフだと、ヒマワリの種を混ぜつつも「大麦」3割以上の配合飼料を与え、種鳩の場合にはなんと「大麦」のみ。これは換羽が終わってからの、というのが正確なタイミングだが、余計に発情させないこと、そして作出前にカロリーを上げることで順調に発情させるため、

のようである。選手鳩に話を戻すとシーズン中は「大麦」を抜いた「配合飼料」をメインとし、地区Nからは「フランスメイズ」の多い餌にチェンジ。量は1日「42グラム」を年間据え置きとしており、「質」でカロリーアップを図っているスタイルだ。一方、鳩作りも前述の「絶対王者」と称えられた時代と変化はない。配合は基礎鳩として本誌の表紙（04年1月号）を飾ったことのある「パーラー号」の両親——源鳩カップルが教えてくれたという「白い背中×黒い背中」のフリーディングを現在も徹底しており、また立ち姿から見ると「バラン」の良い「トリ」も数多く揃えている。それならばなぜ「日本一」いや「日

本優秀鳩舎賞」に振り返り咲くまで15年もかかったのだろうか。「今春は柴田（茂昭）さん（*日本優秀鳩舎賞3回の強豪）に負けっぱなしだったせいで、燃えたからね」とライバルの台頭に対するモチベーションも関係したようだ。取材中、ポロっと口にした重要なのはいい鳩がいるかどうかだから……。実はこれこそが「絶対王者」帰還のヒントなのかもしれない。

血統の再熟成が要因か!?

絶対的強さを示した90年代後半から00年代。その核を務めていた前述の「パーラー号」とその一族は、これまで高塚久雄鳩舎が保持していた日本一の受賞数と連続記録を共に超えたことによる「パーンアウト（燃え尽き症候群）」で、自身の中断まではいかなかったものの、少なからずその中核は手離されていた。完成されていた自系統の再構築までの時間がかかった、というのが今回の「日本一」受賞の要因かもしれない。その二つのエピソードが、21年度のKBD B会長全国優勝鳩「ニュー・ミスワール」を含めた「パーラー系」によるポイントゲッターの多さであろう。とりわけ13年のGP総合優勝鳩からは、4羽

日本最優秀鳩舎賞のポイントゲッター総覧

★東京東連盟Rg1,804羽中総合4位

20MA01946 B ♂ 河原雅基鳩舎作翔

- 12MA02299 B 河原雅基作翔 14年GP総合3位孫/21年GP連盟5位・総合8位
- 06MA12621 B 河原作 パーラー系
下記“チャンピオンガール”の直仔×
“チャンピオンガール”(04年東日本CH総合優勝)
- 09MA03350 BP 河原作
“キッド”の直仔×04年東日本CH総合5位
- 06MA12642(19年生まれ) B 河原雅基作

20MA01856(21年地区N総合4位)の異父姉

★東京東連盟Rg1,804羽中総合7位

19MA05206 B ♀ 河原雅基鳩舎作翔

- *全姉/21年桜花賞総合3位 全兄の娘/21年地区N総合3位
- 16MA02266 R 河原雅基作翔
16年秋500K総合5位、Rg総合2位、AP賞連盟1位
- 12MA02269 DC 河原作翔 パーラー系
13年GP総合優勝 12年秋Rg総合10位、AP賞連盟1位
- 14KA20160 S 古谷正作
- 17MA06912 B 河原雅基作翔 地区N総合6位他
- B12-6050193 B オブ・ドベーク&パーテンス作
孫/KBDB会長賞全国優勝(表紙の鳩)
- 14MA04738 BP 河原作

★東京東連盟Rg1,804羽中総合9位

19MA05307 B ♂ 河原雅基鳩舎作翔

- 09MA03439 B 河原雅基作翔 10年GP総合2位・連盟優勝
99年秋400K総合優勝の直仔 孫/21年GP連盟2位・総合2位
- 14HF18191 B 水越康治作 “フィネケ5000”の直仔×娘
曾孫/21年地区N総合2位

★東京東連盟地区N1,353羽中総合2位

20MA01918 BC ♀ 河原雅基鳩舎作翔

- 06MA12628 B 河原雅基作 直仔/18年東日本CH総合2位
- 02MA04007 BC 河原作 娘/“チャンピオンガール”
- NL94-1544033 BCP コー・ファンドメレン作
- 18MA00293 BC 河原雅基作
12MK04800 BW 下田作
ルク・シウン作×ヤン・ヘルマンズ作
- 15MA08362 B 河原作 ガストン作×上記14HF18191
異父兄弟/21年春Rg総合9位

★東京東連盟地区N1,353羽中総合3位

20MA01960 B ♀ 河原雅基鳩舎作翔

- 18MA00297 B 河原雅基作
全妹/21年春Rg総合7位、21年桜花賞総合3位
- 16MA02266 R 河原作翔
16年秋Rg総合2位、500K総合5位、AP賞連盟1位
父/13年GP総合優勝
- 17MA06912 B 河原作翔 Rg総合9位、地区N総合6位
異母兄弟の娘/KBDB会長賞全国優勝(表紙の鳩)
- B12-6050193 B オブ・ドベーク&パーテンス作
- 14MA04738 BP 河原作
- 11HF00068 BCP 水越康治作 純ブリュッヘマン兄弟系
“メルパチ”(ボルドーN24位・源鳩“オード62”直系)の娘

★東京東連盟地区N1,353羽中総合4位

20MA01856 B ♂ 河原雅基鳩舎作翔

- 13MA01671 W 吉川作 300K優勝
- B09-6323208 BC ファンデンブランド作
- 06MA13373 W 吉川作
- 17MA07088 BC 河原雅基作 孫/21年春Rg総合4位
- 15KA06060 BC 古谷正作
- 15MA02210 BC 河原作

★GP東京東連盟953羽中2位・総合2位

19MA05300 B ♀ 河原雅基鳩舎作翔

- *秋AP賞連盟3位
- 11MA01409 B 河原雅基作翔 12年GP総合3位
“キッド”の孫×99年秋400K総合優勝の娘
- 18MA00300 BW 河原雅基作
- 09MA03439 B 河原作翔 10年GP総合2位・連盟優勝
直仔/21年春Rg総合9位
- 17H501552 “ハリ”のライン

★GP東京東連盟953羽中5位・総合8位

20MA01989 B ♂ 河原雅基鳩舎作翔

- 15MA08219 B 河原雅基作翔
15年秋400K総合3位、Rg総合4位、AP賞連盟1位
- 12MA02299 B 河原作翔 14年GP総合3位 パーラー系
直仔/21年春Rg総合4位
- 97M12699(オールド環) B 河原作
全姉妹の娘/KBDB会長賞全国優勝(表紙の鳩)
- 08MA11699(オールド環) BC 河原雅基作
全兄弟の娘/21年春Rg総合7位、21年桜花賞総合3位
- 12MA02269 DC 河原作翔 パーラー系
13年GP総合優勝、12年秋AP賞連盟1位
- 14KA20160 古谷作 デブクワ兄弟作×ファンコペノール作



★東京東連盟桜花賞376羽中総合優勝

“ニュー・ミスワールレ”

20MA01811 B ♀ 河原雅基鳩舎作翔

*令和3年度KBDB会長賞全国優勝
21年春東京東連盟地区N総合7位

- 15MK07512 BC 斎藤実作
- 04ZA78455 BC 木島寛作
“スーパーベン” BC ロベール・ベン 作翔
04年バルセロナIN5位・N優勝 03年バルセロナIN20位・N2位
01年バルセロナIN44位・N3位 03年ベルピニャンIN3位
曾孫/21年バルセロナIN優勝
- “ミス・ワールレ” BC コーペマン父子 作翔
04年サンバンサンN優勝、ルフェック優勝
孫/“ミス・マニワン”(07年サンバンサンN最高分速)
- 06MB14699 B 木島作
96MB18800(“バルセロナII”×“ペアトリクスカイパー”)×全姉
- 97M12698(14年生まれ) B 河原雅基作
全姉妹の孫/21年GP連盟5位・総合8位
- B12-6050193 B オブ・ドベーク&パーテンス作
“ミスターカニバル”(“カニバル”の直仔)×
“ミステイク”(“ソット”×“カニバル”の娘)の孫
孫/21年春Rg総合7位、21年桜花賞総合3位
曾孫/21年地区N総合3位
- 07MA03438 BC 河原作
05MM05656 BCW 河原作 パーラー系
“パーラー号”の異父兄弟(92MA00269)近親系、“ウノ”の筋
- B01-5025914 BC P・ローザン作 “ド・ナショナル”の娘

★東京東連盟桜花賞376羽中総合3位

19MA05291 B ♀ 河原雅基鳩舎作翔

*全妹/21年春Rg総合7位 全兄の娘/21年地区N総合3位

- 16MA02266 R 河原雅基作翔
16年秋500K総合5位、Rg総合2位、AP賞連盟1位
全兄弟の直仔/21年GP連盟5位・総合8位
- 12MA02269 DC 河原作 13年GP総合優勝他 パーラー系
- 14KA20160 S 古谷作
- 17MA06912 B 河原雅基作翔 Rg総合9位、地区N総合6位
異母兄弟の娘/KBDB会長賞全国優勝(表紙の鳩)

のポイントゲッターが誕生。種、血として現在の基礎になっている印象だ。河原鳩舎は「全国1位はさすがにラッキーだった」と総括するが、実はそうではない。これまでの歴史が証明するように管理と血統の熟成があった、「日本最優秀鳩舎賞員」を手にすることが出来る。その法則が発動したと判断した方が自然であろう。ちなみに21年生まれのレーサーに手応えを感じているようで、22年度も「日本最優秀鳩舎賞」の受賞はいけるだろうとニヤリ。全てが熟成、いや完成されたあの強い河原鳩舎が帰ってきた。



令和3年度 第34回

3回目

日本優秀鳩舎賞・全国2位

飛田輝明鳩舎(茨城連盟・茨城北連合会)

ベストポイントゲッター

GN茨城連盟824羽中優勝・総合4位

“マリン・GN・プリンセス”

18HA17389 BC ♀

飛田輝明鳩舎作翔



- 15HB12397 BCW 飛田輝明作翔
16年春茨城連盟200K総合4位
- 11HB00366 BCW 坂場富夫作
12HB04833 BCW 飛田作
“ヨーブ”×“マリン・エンジェル”
- 16HS06251 B 栗原明則作
“ド・バルセロナ”の直仔×“リバウド”娘
全兄弟/14年東日本種内GN総合4位

入賞率合計：0.04444

レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	20HA14684	BC	♀	4,910羽	3位	0.00061
	19HA05968	B	♀	4,910羽	4位	0.00081
	20HA16711	B	♂	4,910羽	5位	0.00102
地区N	20HA14699	DCW	♀	3,684羽	4位	0.00109
	20HA16703	BC	♂	3,684羽	38位	0.01031
	18HA14155	B	♀	3,684羽	39位	0.01059
GP	19HA05808	BC	♀	2,285羽	2位	0.00088
	19HA06021	BC	♀	2,285羽	16位	0.00700
	18HA17389	BC	♀	824羽	1位	0.00121
GN	18HA17389	BC	♀	824羽	1位	0.00121
	19HA09132	B	♀	824羽	9位	0.01092

飛田輝明鳩舎のプロフィール

- ・鳩歴：39年・レース歴：39年
- ・鳩舎規模：種鳩7坪150羽 選手鳩7坪200羽
- ・主力系統：グロンドラーズ系、地元の飛び筋
- ・代表翔歴：17年日本最優秀鳩舎賞
日本AP賞4回受賞うち全国1位1回(19年)
91年天塩CH総合優勝
21年春のスタート羽数：280羽(うち成鳩72羽)

は知る人ぞ、知るである。そして21年、前年に匹敵する内容でGPまで終了。つまりは「日本一」も夢ではないポジションであった。自ずと桜花賞で全鳩勝負になると思われ

「戦力2分でも日本二に肉薄！史上最高のシーズンを演出す！」
14年に大病を患いながらも、無事回復したことで「全国タイトル」を意識した飛田輝明鳩舎。それからわずか1年で日本AP賞、3年後の17年にはなんと「日本最優秀鳩舎賞」を手にする。この確変は据え置きのみまで、19年に再度「日本最優秀鳩舎賞」を獲得すると、日本AP賞ではなんと全国1位を受賞。史上初「人」と「鳩」の日本一獲得という快挙を成し遂げた。鳩質でも全国トップとなったがゆえか、20年はコロナ禍によってGPで終了となってしまったものの、この時点の入賞率で見ると2度目の「日本最優秀鳩舎賞」受賞も

であったこと、は知る人ぞ、知るである。そして21年、前年に匹敵する内容でGPまで終了。つまりは「日本一」も夢ではないポジションであった。自ずと桜花賞で全鳩勝負になると思われ

たが、飛田鳩舎は長年の夢だった関東三大長距離レースオールベストテン入りを果たすべく、唯一番外だったGNと戦力を2分する。日本一よりも優先した結果、宿願を叶え、GNで総合4位に入賞。一方の日本最優秀鳩舎賞はというと。なんとこのGNでの成績により、「日本最優秀鳩舎賞」も夢ではない入賞率——「0.04444」でこの賞レースに臨むこととなる。下馬評でも「日本一」という評価があったようだが、ライバルの台頭により眠りから覚めた「絶対王者」河原雅基鳩舎の牙城は崩せず、全国2位での受賞となった。

2度目の頂点には届かなかったものの、初挑戦の「全日本ゼネラルCH賞」でベストマーク賞を射止め、また日本AP賞でも4度目の受賞を果たした。しかも前述の全国1位鳩「マリントップエース」の孫による成果。これらの成績から飛田鳩舎自身、この1年を史上最高だったと振り返っている。

つまり進化を示した21年だったというわけだが、もしそれがまだ途上であったとしたら。「日本最優秀鳩舎賞」への振り返きどころか、未だ誰しもが果たしていない「オリエンタルチャンピオン」の称号さえも手にしてしまうかも知れない。



令和3年度 第34回

2回目

日本優秀鳩舎賞・全国3位

住谷勝三鳩舎(ニュー近畿連盟・豊中連合会)

ベストポイントゲッター

ニュー近畿連盟Rg2,804羽中総合4位
ニュー近畿連盟地区N1,602羽中総合6位

“Ryōga453”

19XA13453 BC ♂

住谷勝三鳩舎作翔

*令和3年度会長賞全国1位

シルバー・エクセレントピジョン認定

全兄弟/17年春ニュー近畿

連盟Rg総合優勝



入賞率合計: 0.05960

レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	19XA13453	BC	♀	2,804羽	4位	0.00143
	18XA09208	BC	♂	2,804羽	5位	0.00178
	20XA05149	BC	♀	2,804羽	6位	0.00214
地区N	19XA13453	BC	♀	1,602羽	6位	0.00375
	20XA05334	BC	♂	1,602羽	12位	0.00749
	20XA05149	BC	♀	1,602羽	13位	0.00811
桜花賞	20XA05020	BC	♀	365羽	5位	0.01370
	20XA05013	B	♂	365羽	6位	0.01644
	20XA05314	BWP	♂	630羽	1位	0.00159
GP	20XA05050	B	♂	630羽	2位	0.00317

- NL09-1375314 BCW ヤン・ホーイマンズ作
(「ハリー」異母兄弟×「ハリー」の母)×「ハリー」の異母姉妹
- 13XA13070 B 住谷勝三作翔
14年ニュー近畿連盟GP総合2位
- 05XY05158 BC 住谷作 王将口フト委託
「楓&いちょう」の直系
- 11XA06832 BC 住谷作
「楓&いちょう」の近親の直仔×「カニバル」直系

住谷勝三鳩舎のプロフィール

- 鳩歴: 50年 ・ レース歴: 47年
 - 鳩舎規模: 種鳩25坪130羽 選手鳩15坪200羽
 - 主力系統: リンパレイ系 ベルギー&オランダ輸入系
 - 代表翔歴: 21年会長賞全国1位
21年全日本ゼネラルC H賞・プラチナマーク賞
200K ~ 1200K 各総合優勝
- 21年春のスタート羽数: 170羽 (うち成鳩50羽)

会の賞レースに参加するようになる——も、「目の前にあるレース全てに勝りたい」という勝負師の性(さが)に逆らうことができず、規程クリアどまりとなっていた。

「ドリブル」で全国再デビューを果たした同鳩舎に加え、前述の古里鳩舎、ニュー近畿連盟から協会三大最高賞の受賞鳩舎が4鳩舎が誕生し、上野栄一鳩舎にいたっては日本AP賞の全国1位を獲得。真なる力を開放できる環境となったことで、「鳩レース発祥の地」近畿の逆襲が始まるかもしれない。そしてその主役を担うのは、王の中の王の称号——「オリエンタルチャンピオン」さえも見据えた、近畿のカイザーであろう。

真なる強さをついに解放！
皇帝・ドリブルで全国再デビュー！

高名なピジョンジャーナリストにより、「近畿のカイザー」と称された競翔家——住谷勝三鳩舎。この異名に違わず、名門・ニュー近畿連盟を舞台にして総合優勝はもちろんのこと、優秀鳩舎賞の常連として王者のごとく君臨してきた。「打倒！住谷鳩舎」をスローガンにあげるレースマンは多く、今回地元元鳩界初となる協会三大最高賞全受賞を果たした古里治彦鳩舎がその代表である。

ところがである。ニュー近畿連盟では、他の強豪団体と同じく「日本優秀鳩舎賞」を狙いやすいレース日程に改正した上、大和連盟の解散に伴い会員数が増加すると、その規模は西日本鳩レース界最大級へと拡大。この追い風が、住谷鳩舎の強さを真なる、いや然るべきものへと昇華させた。地元元鳩界初となる「会長賞全国1位」鳩を誕生させ、日本優秀鳩舎賞ではなんと19年度の「日本」と同じ「5%」台をマーク。まさしく「カイザー」の異名通りの強さを示す。そして連盟史上最高位——全国3位の入賞率で28年ぶりに受賞を果たした。また住谷鳩舎は「全日本ゼネラルC H賞」でも全国2位にあたるプラチナマーク賞を獲得しており、会長賞を含めれば、なんと3つの全国ベスト3を射止めたことになる。

令和3年度 第34回 **日本優秀鳩舎賞・全国4位**

KANDA LOFT (平成千葉連盟・鎌ヶ谷中央連合会)

5回目

*21年春のスタート羽数：114羽(うち成鳩36羽)

レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	19LC02297	B	♂	3,554羽	1位	0.00028
	19LC02263	BC	♂	3,554羽	3位	0.00084
	20LC01601	B	♀	3,554羽	4位	0.00113
地区N	19LC02295	B	♂	2,887羽	4位	0.00139
	19LC02336	BC	♀	2,887羽	5位	0.00173
	20LC01536	B	♂	2,887羽	9位	0.00312
桜花賞	20LC01567	B	♂	788羽	10位	0.01269
	19LC02295	B	♀	788羽	22位	0.02792
	19LC02385	B	♂	1,464羽	5位	0.00342
GP	19LC02295	B	♀	1,464羽	14位	0.00956



入賞率合計：0.06208

これまでこの「負のスパイラル」からの脱脚に苦しんできたが、21年は後に日本AP賞を射止めることとなる「19LC02295」の活躍もあり、桜花賞の規程を達成後初めてクリアすることに成功。結果、全国で4番目の入賞率で待望の「日本優秀鳩舎賞」を手にする。

父・隆夫氏にとって17年ぶりの「返り咲き」だったが、実は21年も17年と同じく、GP終了した時点で叩き出した入賞率は、全国1位！長距離レースの完全攻略が果たされた時、史上初「親子鷹」による日本一が誕生するかもしれない。

課題の「1000K」を克服！
親子鷹ついに最高賞獲得！

かつて日本優秀鳩舎賞を4回受賞し、95年と00年には「日本2位」という経験をもつ神田隆夫氏は、15年にご息・亮介氏とタッグを組み、KANDA LOFTを結成。以来、総合優勝はもちろんのこと、KDBB会長賞の全国優勝まで果たし、その強さは据え置きどころか、ますます磨きがかかっていたといつて過言ではない。

ところが競翔家としての総合力を推し量る最高賞「日本優秀鳩舎賞」に関しては、GPまで常に全国トップレベルの成績を取めながらも受賞に届かず。その最たる例が関東三ブロック連盟共同GPをワンツーで制したことで、入賞率ダントツの全国トップに躍り出た17年であろう。そもそもKANDA LOFTの戦力は、デスクプレーターやクリスチャン、ガイス・ペーターといったスピード系が主である。かつご子息の距離志向も手伝って、当日レースの強さに絶対の評価をもつ一方、翌日決着が常となる「1000K」レースでの失速が課題となっていた。

令和3年度 第34回 **日本優秀鳩舎賞・全国5位**

一文字ロフト (茨城連盟・茨城東連合会)

3回目

*21年春のスタート羽数：441羽(うち成鳩120羽)

レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	19HA03545	BW	♀	4,910羽	9位	0.00183
	20HA05722	B	♀	4,910羽	10位	0.00204
	20HA05136	BCWP	♀	4,910羽	11位	0.00224
地区N	19HA03543	BC	♂	3,684羽	7位	0.00190
	20HA05178	BC	♀	3,684羽	12位	0.00326
	19HA01611	BC	♂	3,684羽	29位	0.00787
GP	19HA02276	DCW	♂	2,285羽	36位	0.01575
	20HA05009	BC	♀	2,285羽	55位	0.02407
GN	20HA05493	B	♀	824羽	2位	0.00243
	19HA02137	DC	♀	824羽	3位	0.00364



入賞率合計：0.06503

ポイントゲッターは、むろん世界最高のコロニーで形成されており、とりわけ19年にGN、20年には地区Nと2年連続で総合優勝鳩を生み出したバルセロナファイリッパからは、GN総合9位(連盟3位)を含め4羽が該当。3年間の実績から種そして血として完全に覚醒した感ありだ。他にも同ロフトの最高傑作の1つにして、19年にGN総合3位鳩と日本AP賞を生み出すなどブリーダーとして大成を収めている。椎内ユウロスターからも貢献鳩が3羽誕生しており、核として実績を高めている。

今回は全国5位に収まったが、入賞率でみれば日本一を獲得した前回と「1%」差。一つ歯車がかみあえばいつでも日本一に返り咲くことができる、ということだ。一文字ロフトは改めて「ブレない強さ」を示したようである。

完成された管理と系統
ブレない強さで3度目の受賞！

日本最優秀鳩舎賞2回、東日本椎内GN総合優勝3回と、その軌跡は栄光に満ち溢れている一文字ロフト。最大の強みはバルセロナN優勝鳩やオリンピックA代表鳩——世界ナンパーワンといつて過言ではないブリーダー陣営から生み出される「最強コロニー」であろう。そして代表の松平竜也氏曰く「ブレない管理」——完成に限りなく近いそれにより、その真なる力が解放され、前述の「サクセスロード」が生まれたことはつとに有名だ。

21年はGPでやや低迷したものの、Rg、地区N、GNの3レースでシングル入り。うち一文字ロフトの命題にして「2連覇」のかかった東日本椎内GNではベストテンに2羽入賞している。

令和3年度 第34回 日本優秀鳩舎賞・全国6位

黒田哲夫鳩舎 (千葉東連盟・上総連合会)

5回目

*21年春のスタート羽数：221羽(うち成鳩93羽)

レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	20LK01574	B	♂	4,489羽	13位	0.00290
	19LK00381	BP	♂	4,489羽	14位	0.00312
	20LK01439	B	♀	4,489羽	15位	0.00334
地区N	20LK01525	B	♀	3,705羽	6位	0.00162
	20LK11777	BC	♀	3,705羽	14位	0.00378
	19LK00204	BC	♀	3,705羽	15位	0.00405
桜花賞	20LK01422	BW	♀	1,133羽	17位	0.01500
	19LK00390	B	♀	1,133羽	21位	0.01853
	20LK01480	BC	♀	2,333羽	12位	0.00514
GP	20LK01480	BC	♀	2,333羽	12位	0.00514
	19LK00347	B	♀	2,333羽	18位	0.00772

入賞率合計：0.06520



エース不在で迎えた最後の戦い!!

前回の日本2位である黒田哲夫鳩舎は、21年春を背水の陣で臨んだ。その理由は、この年を自身のラストイヤーに位置づけたからである。ところが春シーズンに入る直前に、19年度のベストポイントゲッターにしてスーパーエクスレントビジョンにリーチのかがついていた「エース」がまさかの失踪。低いモチベーションのまま最後の戦いがスタートした。

それでも初受賞から19年までの8年間で「日本優秀鳩舎賞」4回、うち1回は「日本最優秀鳩舎賞」である。王者としてRBまでに自身のメンタルを立て直す、黒田鳩舎の「位」である各距離に強いスペシャリストで固められたチームは正しく反応。シングルは地区Nのみとなったが、他規程3レース全てで総合10位台と、驚異的な安定感を発揮する。結果、日本優秀鳩舎賞では全国6位の入賞率でクリアすると、自身にとつて5度目の受賞を達成。この獲得ベースは、今回果たされた奥住 豊鳩舎に次ぐスピードだ。

さらに黒田鳩舎は、受賞こそならなかったものの日本AP賞の規程をクリア。全日本ゼネラルC日賞では自身にとつて最高位となる5位で選出されると、そのポイントゲッターが「ゴールドエクスレントビジョン」の認定を勝ち取っており、有終の美を飾るにふさわしいシーズンとなっている。そして21年秋をもって「黒田哲夫鳩舎」という一人の競翔家の物語が幕を閉じた。かに思えたが、同鳩舎のホームページ上で現役続行を宣言。好きだからやめられない。これぞ、鳩レースがホビーたる所以である。

令和3年度 第34回 日本優秀鳩舎賞・全国7位

ピグマリオンロフト (平成千葉連盟・常総中央連合会)

2回目

*21年春のスタート羽数：130羽(うち成鳩50羽)

レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	20LC01038	B	♂	3,554羽	11位	0.00310
	19LC01276	BC	♂	3,554羽	15位	0.00422
	19LC02720	BW	♀	3,554羽	29位	0.00816
地区N	18LC01661	B	♂	2,887羽	26位	0.00901
	19LC02720	BW	♂	2,887羽	28位	0.00970
	19LC01296	BC	♀	2,887羽	34位	0.01178
桜花賞	19LC01296	BC	♀	788羽	3位	0.00381
	19LC01286	BC	♀	788羽	15位	0.01904
	20LC13256	B	♀	1,464羽	1位	0.00068
GP	20LC13256	B	♀	1,464羽	1位	0.00068
	19LC01287	BC	♀	1,464羽	2位	0.00137

入賞率合計：0.07087



最高傑作まで誕生! ピグマリオン効果は健在!

平成最後の日本一のピグマリオンロフトが、2度目の「日本優秀鳩舎賞」に選出。全国7位を獲得した。「期待成果」というピグマリオン効果をもっとする同ロフトだが、21年春はGPで連盟ワンツーを飾ると、桜花賞では総合3位に入賞し、2戦連続ベスト3入りを達成。その後半戦の海越えレースでの活躍が光つての受賞である。そして後者の成績(※桜花賞総合3位)を収めた「19LC01296」は地区Nでも自鳩舎3番手に帰還しており、ナンバーワンポイントゲッターとして存在感を示す傍ら、KBDB会長賞でも連盟1位を獲得。しかも全国で3番目の入賞率をマークしており、現時点での最高傑作の1羽といつて過言ではないだろう。

この「19LC01296」は異血交配であったものの、基礎ライン——「03LK11283」と「お年玉号」の直系からもGPの連盟優勝鳩「20LC13256」など複数のポイントゲッターが誕生。またピグマリオンロフト第3の筋である「04ZA38164(※オルレアン)の10万羽最高分速鳩「マリールイズ」の直仔」の血が本格的に覚醒したようで、貢献鳩を3羽(※R8総合11位、地区N総合26位、桜花賞総合15位)輩出している。代表の糸川隆男氏は、レース鳩に対する愛情は深く、管理もこれに応じたものとなっている。つまり今回の受賞も「ピグマリオン効果」であることは間違いない。愛鳩家でも日本のトップランナーたちと競える。ピグマリオンロフトは、まさしくそのお手本だ。

令和3年度 第34回 **日本優秀鳩舎賞・全国8位**

興住 **豊鳩舎** (埼玉連盟・埼玉中央連合会)

7回目

*21年春のスタート羽数：167羽(うち成鳩74羽)



レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	19KA08378	BCW	♀	6,412羽	1位	0.00016
	19KA07673	B	♀	6,412羽	20位	0.00312
	20KA31055	B	♀	6,412羽	55位	0.00858
地区N	20KA29581	BCW	♀	5,255羽	28位	0.00533
	20KA31048	BC	♀	5,255羽	33位	0.00628
	19KA07431	B	♀	5,255羽	71位	0.01351
桜花賞	20KA29691	B	♀	1,485羽	1位	0.00067
	19KA07318	BCP	♀	1,485羽	26位	0.01751
	19KA07431	B	♀	3,732羽	19位	0.00509
GP	19KA07318	BCP	♀	3,732羽	86位	0.02304

入賞率合計：0.08329

継続こそ強さの証！
7連続の大記録樹立！

19年の時点で岩田誠三、河原雅基両鳩舎に並び、「日本優秀鳩舎賞」の連続受賞記録を手にした興住豊鳩舎。春レースが全消化できた21年春、単独トップの「7連続」に到達できるのか、注目されていた。――さすがレース歴50年以上の大ベテランである。プレッシャーなどなもののその、規程レース初戦のRgで総合優勝を果たし、地区N、GPも順調にクリア。最後の桜花賞でも連盟のトップ、かつ併催の東日本CHではD地区優勝という、終わってみれば、キャリアハイともいべき好成绩で春をフィニッシュする。そして「日本優秀鳩舎賞」の受賞も決め、ここに「7連続」という前人未踏の大記録が樹立された。

絶対的な強さを示したのは、初選出の頃と何も変わらない「完成」された管理と「CHエースクイン」(*04年度日本A賞全国1位&総理大臣賞全国優勝)、「ゴッドR」(*03年秋Rg総合優勝)、「プロアレザ」(*万羽レース優勝3回の「レーザ」全兄弟)からなる3本柱である。とりわけ「プロアレザ」からは前述の総合優勝鳩2羽の他5羽のポイントゲッターが輩出されており、一際輝きを放った印象だ。

「継続は力なり」というように、全国トップレベルを常に維持することは困難である。ましてや生き物を対象としたビジョンスポーツだけに、だ。この大記録は「日本」に匹敵するものといつて過言ではない。しかし興住鳩舎自身、その視線の先にあるのは「日本最優秀鳩舎賞」。帝王の覚醒が極まる時は近い！

令和3年度 第34回 **日本優秀鳩舎賞・全国9位**

古里治彦鳩舎 (ニュー近畿連盟・京都雅連合会)

初受賞

*21年春のスタート羽数：313羽(うち成鳩65羽)



レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	20XA10996	B	♀	2,804羽	3位	0.00107
	20XA11014	BW	♂	2,804羽	11位	0.00392
	20XA10904	B	♀	2,804羽	12位	0.00428
地区N	20XA10997	BC	♀	1,602羽	1位	0.00062
	20XA10832	S	♂	1,602羽	3位	0.00187
	20XA10902	B	♂	1,602羽	4位	0.00250
桜花賞	19XA14779	B	♀	365羽	8位	0.02192
	19XA09195	BC	♀	365羽	9位	0.02466
	18XA11055	BC	♀	630羽	5位	0.00794
GP	20XA10847	BC	♂	630羽	13位	0.02063

入賞率合計：0.08941

憧れを現実に！
頼もしき「ネクストエイジ」！

西日本鳩レース界で今最も勢いある若手(*50代)かもしれない。古里治彦鳩舎は18年に総合表彰式に初めて出席したことで、「あの壇上に立ちたい」、「栄光のカーペットの上を歩きたい」という強いモチベーションを手に入れる。そのわずか2年後(*19年)に日本A賞全国3位を獲得し、1つ目の目標を達成すると、21年、2つ目――念願であった日本優秀鳩舎賞の受賞を果たす。

古里鳩舎の夢を叶えたのは、300羽以上からなる西日本鳩レース界最大級のレーシングチームだ。しかもそれらは、同鳩舎の本筋であるマジックナルボンヌの全兄弟である源鳩の「05」や大阪鳩界の重鎮・朝田忠則氏経由の輸入系その他、ホイマンスの「ハリ」、ガストンの「ガースブルー」といった異血として迎え入れたヨーロッパの銘系で構成。対象が全距離であるため、さまざまなタイプの銘血を揃えたことが、今回の受賞につながった要因だと古里鳩舎は考えているようだが、中でも朝田氏が最後の基礎鳩として認めた「ヴィクトル」の血は地区N総合優勝(*20XA10997)、19年に続いて2羽目の日本A賞(*20XA11014)を輩出。「バイライト」を作り出した。

古里鳩舎は、前述の通り「日本A賞」、また「全日本ゼネラルCH賞」にも選出されており、協会三大最高賞、その全てを同時に手に入れている。これはニュー近畿連盟において史上初の快挙だ。日本鳩レース界の主力は65歳以上となっている今、ここに頼もしき「ネクストエイジ」が誕生した！

令和3年度 第34回 日本優秀鳩舎賞・全国10位

富田欣宏鳩舎 (埼玉連盟・埼玉北葛連合会)

初受賞

*21年春のスタート羽数：43羽(うち成鳩10羽)

レース別	鳩番号	羽色	性	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	19KA35031	BC	♂	6,412羽	2位	0.00031
	19KA35074	RC	♂	6,412羽	28位	0.00437
	19KA35068	B	♂	6,412羽	124位	0.01934
地区N	20KA20447	B	♂	5,255羽	70位	0.01332
	20KA20467	B	♂	5,255羽	92位	0.01751
	20KA26390	B	♂	5,255羽	104位	0.01979
桜花賞	20KA20447	B	♂	1,485羽	6位	0.00404
	20KA20475	BW	♂	1,485羽	14位	0.00943
GP	19KA35031	BC	♂	3,732羽	2位	0.00054
	20KA20452	BC	♀	3,732羽	15位	0.00402

入賞率合計：0.09267



小規模で最高受賞！
衝撃を与えたベストテン入り！

令和3年度「日本優秀鳩舎賞」の最後の椅子には、他協会から移籍して3年春シーズンを最後まで戦ったのが初めてという富田欣宏鳩舎が座った。「超新星誕生」といった印象だが、そもそも同鳩舎はオール関東を舞台とした700K、800K、1000K、1100Kの4レースの全てを制した「ダグラウンドスラム」達成者。しかも「700K」と「1000K」での最高齢記録鳩であり、延べ飛翔距離「288200K」という驚異的なフィジカルをもった「不死鳩号」という伝説的銘鳩を作り出したことでも、実は「有名である」。

然るべき実力を兼ね備えた競翔家というわけだが、選手は3坪50羽と意外にも鳩舎規模は小さい。ゆえに今回の受賞は富田鳩舎が所属する「鳩レース王国」埼玉連盟の勝負師たちにとって、大きな衝撃だったようだ。

現在、同鳩舎の主力系統は、「勢山系」「リンブア系」などで形成された「覚松(かくしゅう)系」。うち源鳩であるうさぎ松エース沙見からは多くのポイントゲッターが生まれ、かつ鳩友にして「10年度の日本」新井繁鳩舎から譲り受けた「白鶴系」との融合で、RgとGPでダブル総合2位の「19KA35031」、KBD B会長賞連盟1位の「20KA20447」といったスター鳩を誕生させている。結果21年春は規程3レースでベストテン入賞を果たし、「日本優秀鳩舎賞」の他「プロックCH賞」、「全日本ゼネラルCH賞」までも獲得。富田鳩舎にとって最も華々しいシーズンになったに違いない。

日本優秀鳩舎賞受賞回数(3回以上)

11回	河原雅基鳩舎 (ベイ東京連合会) ↑	吉田三男鳩舎 (東愛知連合会)
9回	及川 茂鳩舎 (新日本連合会)	増田和雄鳩舎 (尾張連合会)
8回	藤田淳一鳩舎 (尾北第三連合会)	西野宮秀夫鳩舎 (元・日立連合会)
	うさぎロフト (茨城北連合会)	一文字ロフト (茨城東連合会) ↑
7回	高塚久雄鳩舎 (茨日連合会)	浅野 栄鳩舎 (鹿島連合会)
	奥住 豊鳩舎 (埼玉中央連合会) ↑	飛田輝明鳩舎 (茨城北連合会) ↑
	岩田誠三鳩舎 (元・東海連合会)	中田幸雄鳩舎 (埼玉南部連合会)
	石川誠二鳩舎 (川崎連合会)	鈴木 隆鳩舎 (埼玉北葛連合会)
6回	新井 繁鳩舎 (埼玉北辰連合会)	植竹道夫鳩舎 (元・埼玉連合会)
	鹿島成浩鳩舎 (武蔵野連合会)	穴戸 馨鳩舎 (東金セントラル連合会)
5回	阿内益雄鳩舎 (元・茨城セントラル連合会)	森川浩吉鳩舎 (上総連合会)
	黒田哲夫鳩舎 (上総連合会) ↑	今田俊児鳩舎 (下総中央連合会)
	KANDA LOFT (鎌ヶ谷中央連合会) ↑	柴田茂昭鳩舎 (東京南部連合会)
	早乙女節夫鳩舎 (ニュー横浜連合会)	永井 勇鳩舎 (元・新日本連合会)
	横地光彦鳩舎 (静岡県連合会)	中村・有田共同鳩舎 (東愛知連合会)
	神谷 中鳩舎 (元・尾北連合会)	小林晴夫鳩舎 (愛知三州連合会)
	大橋憲夫鳩舎 (岐阜県連合会)	加藤正祝鳩舎 (東海連合会)
		海老利明鳩舎 (富山連合会)
		三宅博幸鳩舎 (元・倉敷連合会)

※所属は2021年時点

令和3年度日本優秀鳩舎賞の規程クリア鳩舎一覧

申請鳩舎	合計入賞率
長谷川 傑鳩舎 (日本海連合会)	0.14507
白土勝治鳩舎 (茨日連合会)	0.22989
檜山郁夫鳩舎 (茨城セントラル連合会)	0.20693
鈴木・大内口フト (茨城北連合会)	0.15685
うさぎロフト (茨城北連合会)	0.12421
久保田人士鳩舎 (埼玉東部連合会)	0.22666
平田兄弟鳩舎 (関東中部連合会)	0.14459
大月章男鳩舎 (群馬連合会)	0.25580
鈴木 隆鳩舎 (埼玉北葛連合会)	0.12118
原田正志鳩舎 (埼玉吉川連合会)	0.21486
秋元儀一鳩舎 (大千葉連合会)	0.22255
並木喜一鳩舎 (上総連合会)	0.11321
小川安都志鳩舎 (東金セントラル連合会)	0.15076
川村治一鳩舎 (鎌ヶ谷中央連合会)	0.17949
鈴木邦男鳩舎 (常総中央連合会)	0.17826
望月 一鳩舎 (大静岡連合会)	0.14388
下村健造鳩舎 (富山連合会)	0.15903
鮎田光男鳩舎 (富山北連合会)	0.15151
北口純一鳩舎 (金沢連合会)	0.19601
井上和夫鳩舎 (しらさぎ東連合会)	0.32390
平川智一鳩舎 (岡山中央連合会)	0.30924

※会員名簿順